



被災先の高校生に義援金送る 富士宮 高校会議所 イベントで浄財集め

富士宮高校会議所（杉山葉奈会頭）はこれまで地元で開催したイベント会場で市民らから募った義援金を石川県立能登高等学校に送金した。写真。

島地震の被災者に何か支援をしたいという思いから募金活動を展開した。震災後の1月から、寄り合い処での音楽で地域を元気に『やにじます祭』、『日本高校会議所オンライン総会』などの各会場に

募金箱を設置して災害義援金を呼びかけた。そのほか毎月開く atelier Q U O K K A（県立富士特別支援学校富士宮分校の卒業生アートクラブ）の活動日、毎週土曜日開催の将棋楽、折り紙楽の日にも募金活動を展開した。

その結果、義援金総額は8万8218円に上り、被災先の高校生たちに渡したいと模索した結果、学校として乗り越えていこうという姿勢や、普通科と地域産業課農業選択があることで今後キャッチボールしながら『マスマス元肥（げんぴ）』を役立ててもらえるのではないかと考え、送金先を能登高校に決定した。

グ、そろばん、ダンスなど多岐にわたる技を披露。遠投では見事な投球ぶりに多くの児童から歓声とリクエストの声。また、ルービックキューブを得意とする児童が、その場でシャッフルされた6面を素早くそろえる様子がスクリーンに映ると大きな歓声が沸いた。

タイピングを披露した天野璃美さん（4年）は「タイピングが好きでみんなに披露したかった。ステージで見てもういさらに自信がついた」と話した。

企画した児童会（スマイル委員会）の塩川未鈴さん（6年）は「雨の日でも楽しめる企画を考えたい。みんなが楽しめるようなので続けていきたい」と述べた。